【実践報告】

寄付付き商品の広報を通じた地域福祉の支援

岐阜市内の企業訪問と商品開発をめぐって

白村 直也 [1)]，後藤 千絵 [2)]，徳永 百合名 [2)]，岡島 絵美 [2)]
[1)] 岐阜大学教育推進・学生支援機構
[2)] 一般社団法人サステイナブル・サポート

要旨

2021 年度後期「課題解決型インターンシップ」を昨年同様，岐阜市の一般社団法人サステイナブル・サポートが運営する就労継続支援 B 型事業所「アリー」にて執り行った。今回は寄付を通じた社会貢献と地域課題の解決を目指してアリーが取り組む「ぎふハッピーハッピープロジェクト」の社会的認知の拡大に取り組んだ。岐阜市内の企業や団体，そして個人等幅広く声がけする中で，地域社会が抱える問題の緩和や解決に向けて自分たちに何ができるかを検討していった。その成果を社会に広く発信すると同時に，企業や地域社会との対話を繰り返す中でインターンシップとしての学びを深めていった。

キーワード：寄付付き商品，開発，障がい者福祉，プロジェクト型インターンシップ

１．はじめに―岐阜大学「プロジェクト型インターンシッププログラム」とは

「岐阜大学プロジェクト型インターンシッププログラム」とは，文部科学省の産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業「中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化」により，2012 年度に岐阜大学が採択された教育プログラムである。

2013 年度は約半年間，パイロットスタディとして PBL 型（Project-Based Learning，チームで課題を解決する）の教育プログラムを実施し，2014 年度からは新たに全学共通教育でのキャリア形成科目「プロジェクト型インターンシップ」として単位認定され，毎年実施されている半期の授業（後期 15 回）である。おおよそ後期の授業時間を利用して 3～5 日間程度，行政機関や民間企業での研修に従事するものである。その過程で，受け入れ先の行政機関や企業より与えられた「課題」の解決に向けたグループワークを実施する。年明け 1～2 月に受け入れ先のご担当様のもとで成果発表会を実施し，課題に対する具体的提案を行うというのがこのプロジェクト型インターンシッププログラムである。

2021 年度は，昨年に引き続き就労移行支援事業所[1)]「ノックス岐阜」の運営を主軸に，岐阜県岐阜市において福祉事業を展開する一般社団法人サステイナブル・サポートが運営する，就労継続支援 B 型事業所「アリー」（岐阜県岐阜市玉井町 36 番地 1）に学生の受け入れをお願いした。当法人は就労に限らず，地域における障がい者が抱える課題に対し非営利団体として課題解決のアプローチを実践している[2)]。

２．就労継続支援 B 型事業所「アリー」とは

まず，就労継続支援 B 型事業所「アリー」（以下，アリー）とはどういうところなのか。この点については昨年度の実践報告で記しているので簡単に触れるに留め，アリーのホームページ［https://alley-ss.com/use/］をもとに紹介したい。アリーは，次のような女性を主な対象に，就労訓練を提供する就労継続支援 B 型事業所[3)]である。

・発達障害，精神障害のある方で，将来的に一般就労を目指す方
・働きたい気持ちはあるけれど，就労移行支援事業所などを利用しても一般企業等の雇用に結びつかない方や，就労経験はあるけれど現在は体調等が整わず一般企業で働くことが困難な方
・細かい手作業や小物づくり，女性向け媒体のライター業務等の興味・適性のある方

就労訓練を受ける利用者は，アリーに週 2 日以上通う。10 時から 12 時，13 時から 15 時の作業，そして 15 時から 16 時の面談などを通じて一般就労を目指している。

障がい者が置かれた環境は，めざましい変化の最中にある。就労についてみてみると，2021 年 3 月から企業の法定雇用率が 2.3%に引き上げられことがメディアで報じられたことは，記憶に新しい。一見すると障がい者の社会への門戸が大きく開かれたように見えるが，いざ就労となるとそのハードルは思いのほか高い。一般社団法人サステイナブル・サポートは，そうした就労の一歩手前で立ち止まってしまう障がい者を支援している。今回学生たちに出された課題のキーワードとなった寄付付き商品は，サステイナブル・サポートが岐阜市という地域に暮らす障がい者の暮らしと就労を，地域の力で支えるための起爆剤として提案したものだ。

３．授業風景

今年度も一般社団法人サステイナブル・サポート（岐阜市）に受け入れをお願いし，障がい者福祉をテーマに取り組むこととなった。出された課題は後述するが，寄付付き商品についての普及，賛同企業の募集活動だった。授業開始時点で今まで障がい者に接したことがない学生も，後期の授業開始後に実施したいくつかの講演を通じて様々な人から話を聞く中

で障がい者が置かれた環境と抱える問題についての理解を深めていった。日本の障がい者福祉制度について学ぶと同時に，日々障がい者に接する中で感じることなど率直なお話を聞くことができた。授業は表１のように進行していった。

表 1．授業の進行状況

日付	授業内容	備考
10/5（火）	初回オリエンテーション	
10/12（火）	講演及び課題提示	ノックス岐阜
10/19（火）	講演	視覚障害者生活情報センターぎふ 常務理事　山田　智直氏
10/26（火）	授業	日本の障がい者が抱える問題
11/2（火）	講演	岐阜障がい者就業・生活支援センター 臼井　三郎氏
11/9（火）	授業	帰蝶訪問のための準備
11/11（木）	インターンシップ訪問	企画書と取引相手リストのプレゼン（図 1）
11/16（火）	授業	企画書やリストの見直し他
11/24（水）	インターンシップ成果報告会	じゅうろくプラザにて発表（後述）
11/30（火）	授業	プレゼン資料の改良
12/1（水）	インターンシップ訪問	イタリア料理店 SPADA インタビュー
12/7（火）	電話でアポ取り	プロジェクト参加のお願い
12/14（火）	授業	プレゼンのリハーサル
12/17（金）	インターンシップ訪問	株式会社坂口捺染　訪問
12/21（火）	リストの方針変更	ここまでの結果を踏まえ企業リスト変更
12/22（水）	インターンシップ訪問	株式会社文化社インタビュー
1/11（火）	報告書の作成など	報告書の作成など
1/18（火）	会議	各自地域を分担しチラシを配ることに
1/20（木）	リモートプレゼン	株式会社バローリモートプレゼン
1/25（火）	今後の方針について	今後の方針について
2/1（火）	最終報告会	授業の振り返りと今後の活動について

アリー訪問と取り組む課題について

PBL 型のインターンシップとして今年度与えられた課題は,「ぎふハッピーハッピープロジェクト[4)]」を通して，サステイナブル・サポートの活動を応援してくれる企業を開拓するということであった。具体的には以下のことをすることとなった。

・岐阜市内の企業にアプローチし，訪問。プロジェクトの説明をする。

・プロジェクトに賛同頂いた企業との寄付付き商品[5)]の共同開発（目標：新規 5 社)。

この課題に埋め込まれた狙いは，主に 2 点あった。ひとつは大元の目的として岐阜市内の企業に自社製品の売り上げの一部を寄付として障がい者福祉の発展に協力してもらうよう働きかけることであり，もうひとつは企業にアプローチ（電話，メール連絡）し，訪問し，担当者にプロジェクトのプレゼンをするという，学生に培って欲しい社会人として求められる技能を培うことにあった。

図 1．アリー訪問の際のプレゼンの様子

図 2．学生が作成したチラシ

課題の提示を受け，授業の中で今後の進め方などを話し合った。メンバー間で役割を決めると同時に，早速作業に取り掛かった。

まずは企業への説明資料の作成に取り掛かったが，岐阜市内の多くの人にも知ってもらいたいとチラシも作成した（図 2）。それに並行して別の学生は，岐阜市の企業，特に社会貢献に力を入れている企業をリストアップし，それぞれに電話連絡し，アポイントを取り，実際に訪問提案も行った。

自らで作成した企画書は丁寧に作りこまれ，昨年度まで高校生であったことを忘れさせるくらいの，成長ぶりを日々見せてくれた。自分たちの成果を複数回世に問うことで，自分

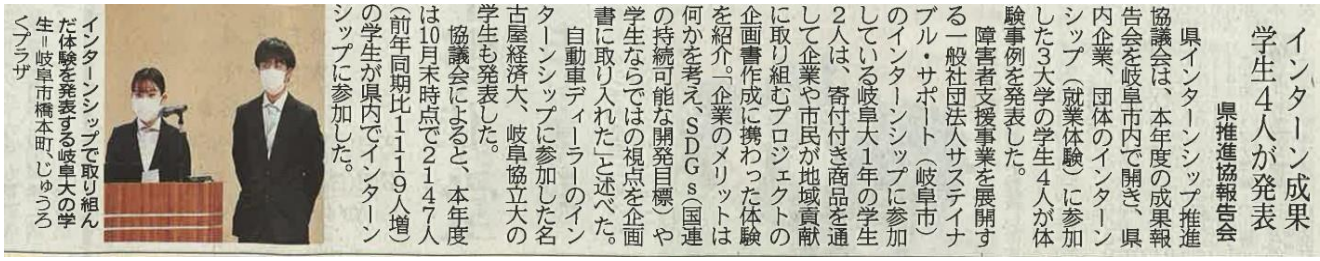
たちの活動の立ち位置を見極め，今後の活動の方向性を見据えていく姿も，非常に心強かった。以降岐阜市内の企業へのアプローチが続き，その進捗は随時学生間で共有された。当初は電話のかけ方，メールの書き方をはじめ，訪問した際のマナーについて戸惑うこともあったが，授業で練習を繰り返す中で改善され，次第に必要とされる所作も学生一人一人が身につけていった結果，当初の緊張も払拭されていったように思う。

令和 3 年 11 月 24 日（水）第 16 回「インターンシップ成果報告会」に出場

図 3. インターンシップ成果報告会での発表

本インターンシップの活動成果を途中経過という形ではあるが，第 16 回インターンシップ成果報告会（主催：岐阜県インターンシップ推進協議会，於：じゅうろくプラザ）にて学生 2 名が 10 分程度の発表をした（図 3)。インターンシップの活動内容，現時点での進捗と問題点などを丁寧にプレゼンすることができた。

当日は，岐阜大学の私たちのグループの他に名古屋経済大学や岐阜協立大学のグループ発表も行われ，リモートながら他大学での取り組みを見聞する良い機会となった。本成果報告会の模様は動画配信サービス「ユーチューブライブ YouTube Live」で生配信され，岐阜新聞にも記事が掲載された（図 4)。



インターン成果
学生4人が発表
県推進協報告会

県インターンシップ推進協議会は、本年度の成果報告会を岐阜市内で開き、県内企業、団体のインターンシップ（就業体験）に参加した3大学の学生4人が体験事例を発表した。

障害者支援事業を展開する一般社団法人サステイナブル・サポート（岐阜市）のインターンシップに参加している岐阜大1年の学生2人は、寄付付き商品を通して企業や市民が地域貢献に取り組むプロジェクトの企画書作成に携わった体験を紹介。「企業のメリットは何かを考え、SDGs（国連の持続可能な開発目標）や学生ならではの視点を企画書に取り入れた」と述べた。

自動車ディーラーのインターンシップに参加した名古屋経済大、岐阜協立大の学生も発表した。

協議会によると、本年度は10月末時点で2147人（前年同期比1119人増）の学生が県内でインターンシップに参加した。

インターンシップで取り組んだ体験を発表する岐阜大の学生＝岐阜市橋本町、じゅうろくプラザ

図 4. 岐阜新聞 2021 年（令和 3 年）11 月 26 日金曜日付け　第 9 面

企業訪問

図 5. イタリア料理店 SPADA　にて

ここで実際に訪問した企業について触れておきたい。

1. イタリア料理店 SPADA　（岐阜市河渡 4 丁目）

店長の白木さんは新型コロナウイルス感染症による不況をきっかけに地域貢献活動に興味を持たれ，本プロジェクトにもすでに参加されているとのことで，参加された感想や今後の方針について聞いた。

（図 5. 左手前の方：店長の白木さん）

図 6. 株式会社坂口捺染にて

2. 株式会社坂口捺染　（岐阜市中西郷）

株式会社坂口捺染はアパレルプリント業を主に行っており，the west riverside という企画を通して地域活性化に取り組んでいる。本プロジェクトの提案を前向きに検討頂いている。本講義が終了するまでには具体的な商品の開発とまではいかなかったものの，学生グループとの交流は続いており，一般社団法人サステイナブル・サポートを交えた 3 者で今後も話し合いを進めていきたいと考えている（図 6）。

図 7. 株式会社文化社にて

3. 株式会社文化社　（岐阜市芋島）

株式会社文化社は，スクリーンやデジタルの印刷業を営んでおり，地域貢献に非常に関心の高い企業である。地域資源を活用した地域活性化をはかる活動を積極的に実施している。本プロジェクトについても大変興味を持って頂き，すでに参加されている。今後も継続して担当者の皆さんと交流しご指導頂きたいと考えている（図 7）。

4. 株式会社バロー　（岐阜県多治見市）

株式会社バローへのプレゼンはリモートで行った。学生からはプロジェクトの趣旨説明がなされ，株式会社バローからはバローグループのサステナビリティビジョンをはじめ，SDGs に関わる取り組みが披露された。学生が提案したプロジェクトの内容に強い関心を持って頂き，多くの質問と助言を頂いた。

図 8. リデザインプロジェクトの概要

株式会社バローの取り組みをまずは知ることが必要と感じ，株式会社バローが販売店として参加されているリデザインプロジェクト（地域産業の資源循環×若者のセンス・アイディア×障がい者就労機会創出×消費者の共感というエシカル消

費を具現化したプロジェクト）（図 8）を見聞させて頂くこととなった。後期の授業が終了したものの，本授業を履修した学生は活動を継続することを考えており，今後は一般社団法人サステイナブル・サポートと株式会社バロー，そして学生たちの 3 者で話し合いを続け，具体的な商品の開発などに繋げていきたいと考えている。

最終プレゼン報告会の開催

令和 3 年 10 月から始まった本授業も，いよいよ最終回となった。今までの取り組みを総括し，インターンシップの受け入れ先である当一般社団法人サステイナブル・サポートのご担当様にその成果を披露する場を令和 4 年 2 月 1 日（火）14 時 45 分から持った。

当日は新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防止する目的もあり，リモートで当一般社団法人サステイナブル・サポートと繋いだ。発表は，1．10 月からの活動内容，2．出された課題に対してどのように取り組み，どのような成果を出すことができたか，3．今後の展開についての 3 点について行った。発表に参加した学生は次のように振り返っている。

〇今回のインターンシップで一番難しく感じたのは自分たちの提案をどのようにして企業に伝えるかであったと思う。しかし，それを考えていく上で企業のことを調べたり，話を聞いたりと，とても勉強になり視野が広がったと感じた。今は協力してくれる企業の開拓でおわっているが，今後とも賛同してくださった企業の方々といっしょに障がい者福祉に貢献できる活動を形にしていきたい。

〇「企業を相手にプレゼンなどを行う」という他ではできないような体験ができました。この経験を就活などに役立てていきます。

〇講義を通して経営者の方の様々な価値観に触れることができ，また，「新規企業 5 社と契約」という目標に向かってメンバーと走り抜けることができ，とても実りある時間を過ごすことができました。講義終了後もバロー様と坂口捺染様とお付き合いさせていただいており，商品開発等を通じていろいろなことを学ばせていただいています。

４．学生を受け入れて

一般社団法人サステイナブル・サポートが「プロジェクト型インターンシップ」を受け入れるのは，今年度で 5 回目になる。

今年度は，一般社団法人サステイナブル・サポートが 2021 年から取り組みを始めた，「ぎふハッピーハッピープロジェクト」について取り組んだ。これは，企業と NPO 団体等（福祉団体や社会課題解決に取り組む団体等）が，共に寄付付き商品を開発し，一般のお客様が商品を購入することで，売り上げの一部が社会課題解決のために寄付されるという，買う人も，企業も，NPO 団体等も，みんなが「ハッピー」になれるという，新たな試みである。当団体ではこれまで，2 社と協働し，このプロジェクトに取り組んできたが，この協働先を増やすことが，今年度学生とともに取り組んだ課題である。

当団体は「就労移行支援事業所ノックス岐阜」「就労継続支援 B 型事業所アリー」など，精神障害や発達障害がある人への就労支援からスタートした団体だが，現在は，生きづらさを抱える学生・若者や，新型コロナウイルスの影響で経済的困窮状態にある人，仕事や生活に悩みを抱える女性等，様々な課題を抱えている人への支援ができるよう，活動の幅を年々拡大している。

しかし，これらの活動の多くは福祉サービスとして公的資金を得ることができず，助成金などを活用しながら活動を実施している。活動資金がないと活動ができない，でも支援を必要としている人は障がい者以外にもたくさんいる。そんな悩みを解決するために，当団体のような NPO 団体は，「ファンドレイジング」（資金調達）を行う必要がある。「ぎふハッピーハッピープロジェクト」は，このファンドレイジングを担う，重要なプロジェクトである。協働先の企業が増え，当団体が受け取る寄付金が増えれば，安定した活動運営が可能となり，より多くの生きづらさを抱える人に支援を届けることができる。

協働先の企業を増やすためには，「営業」活動がメインだったように思う。社会貢献活動に積極的な企業や，SDGs に力を入れている企業を調べ，会ったこともない企業担当者に連絡し，アポイントを取り，訪問し，興味を持ってもらえるように説明する，というのは，学生にとっては大変なことだったに違いない。特に，企業というのは「営利」を目的に活動しているものであって，当団体のような「非営利」の活動を理解してもらうためには，プレゼン側が相応の知識と熱意を持っている必要があるからである。実際，問い合わせをした企業に話すら聞いてもらえなかったり，話しても理解してもらえなかったりなど，苦しい場面もあったことと思う。

どうすれば興味を持ってもらえるのか，どんな情報があれば惹きつけられるのかを考えて準備し，実行することは，企業や事業の規模の大小を問わず，貴重なスキルだ。今後，学生の皆さんが就職したとき，業種や職種に関わらず，このスキルが必要になるときは必ず来るだろう。自分が頑張って学び，準備したことが相手に伝わるという面白さや，伝わることでついてくる結果を見る嬉しさを感じてもらえたならば幸いである。

５．おわりに

今年度本授業「プロジェクト型インターンシップ」を履修した学生は全員 1 年生であった。本授業は岐阜大学全学共通教育の中でキャリア形成科目に属する授業であり，岐阜大学が掲げる基盤的能力の修得はもとより，社会人としての素養を養うことが大きな目的のひとつになっている。

「ぎふハッピーハッピープロジェクト」を通じて，岐阜県はもとより日本が抱える福祉の問題を学び，そのために自分たちに何ができるかを，授業を通じて議論していった。地域福祉の現状と抱える課題を学生間で整理し，その課題の解決のための道筋を描く作業から活動は始まった。その一環として岐阜県の様々な企業と問題を共有し，その解決に協力を仰ごうとしたが，そのためには社会人としてのマナー（メールの書き方，挨拶の仕方，

言葉遣いなど）をまずもって学ぶことが求められた。授業の進行については本文に記したとおりだが，授業が終了した後も学生は接触を持った企業と自主的に交流を続けている。学外の社会人と初年次から交流を持ち続けることで，社会人としての素養もより深く身につけていくことを期待したい。

学生たちの活動は，本文で記した第 16 回「インターンシップ成果報告会」をはじめ，社会に向けて逐一発信されている。授業は終わったが，今後も学生の活動を見守りながら支援をしていきたいと考えている。

【註】

1. 障害者総合支援法に基づいた福祉サービスを提供する事業所。就労を希望する障がい者に対して必要な知識や能力を身につけさせ，当人に合った職場を探すサポートをする。また就労後には職場定着までのアフターケアも行う。
2. 事業内容などについては，就労移行支援事業所「ノックス岐阜」のホームページを参照されたい。
3. この事業所は，厚生労働省の資料「障害者の就労支援について」（平成 27 年）によれば「通常の事業所に雇用されることが困難であり，雇用契約に基づく就労が困難である者に対して，就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う」と説明される。
4. 2020 年 12 月から始まり，社会貢献や地域課題に取り組みたいという企業や市民，NPO の方々の思いを，寄付付き商品の開発・販売を通して形にしていくもの。
5. 今回のプロジェクトでは商品の売り上げの一部がサステイナブル・サポートに寄付され，障がい者福祉の活動資金となる。

【参考文献】

1. 一般社団法人サステイナブル・サポート「ノックス岐阜」［https://sus-sup.org/］（2022 年 4 月 7 日閲覧確認）。
2. 一般社団法人サステイナブル・サポート「就労継続支援 B 型事業所アリー」［https://alley-ss.com/］（2022 年 4 月 7 日閲覧確認）。